

## VIII 病害虫対策

### ●主な病害虫

#### 1 灰色かび病

##### (1) 発生部位及び症状

- ア 多犯性の病気で、非常に多くの野菜等で発生します。
- イ 地上部の果実や葉、茎などで発生します。
- ウ 枯死した部分（花がらを含む）や傷口から発生します。
- エ 病斑部分には灰色のかびが密生します。
- オ 葉では褐色の大型病斑が現れます。茎や葉柄には暗褐色水浸状の病斑を生じ、病徴が進むと病斑部分より上が枯死します。
- カ 生育の進んだ果実の表面に、やや輪郭が明瞭な2～3mmの、ゴースト・スポットと呼ばれる白斑が生じる事があり、これも灰色かび病の症状の一つです。



写真 葉の上に落ちた花卉（花がら）から発病

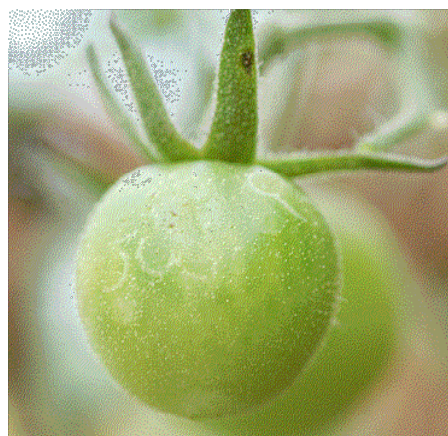


写真 果実のゴースト・スポット

##### (2) 発生環境（多発の要因）

- ア 被害茎葉上で越冬し、翌年の発生源になります。
- イ 開花後の花卉や傷口、葉先枯れ部分など、枯死や痛んだ部分から感染します。
- ウ 気温20℃前後の多湿条件で多発します。

##### (3) 防除方法

- ア 多湿条件には注意し、特に朝つゆで作物がぬれた状態（結露）が長時間続かないよう、換気を行いましょう。
- イ 循環送風機でハウス内の空気を循環させましょう。除湿効果はあまりありませんが、作物の結露時間を短縮することができます。



写真 循環送風機の設置例

- ウ 雨天時や作物に結露がある状態では、整枝や摘心作業は控えましょう。
- エ 防滴効果のあるハウス被覆資材を利用しましょう。
- オ 枯死した葉や灰色かび病に罹病した部分は常に取り除きましょう。
- カ ボトキラー等の微生物農薬は予防効果のみなので、発病前に散布します。

## 2 葉かび病

### (1) 発生部位及び症状

- ア 主に葉で発生し、初発は下葉からが多く、次第に上部に広がります。
- イ 葉の表面に黄変が見られ、葉裏に灰白色のビロード状のかびが群生します。
- ウ 激発すると小葉が上に巻き上がり、枯死します。



### (2) 発生環境（多発の要因）

- ア 被害葉上で越冬し、翌年の発生源になります。
- イ 感染後、葉の表面に黄変症状が現れるまで2週間の潜伏期間があります。
- ウ 気温が20～25℃で、多湿条件により発生が多くなります。
- エ 密植や過度のかん水、肥料切れが発生を助長します。

写真 葉かび病が発生した葉裏部分

### (3) 防除方法

- ア 抵抗性品種を作付しましょう。ただし、抵抗性品種に対して、抵抗を打破するレースも確認されているので注意しましょう。
- イ 密植や過度のかん水は避け、換気を良くしましょう。
- ウ 病徴が確認出来る頃には被害がかなり進んでいるので、予防防除に努めましょう。

## 3 うどんこ病

### (1) 発生部位及び症状

- ア 主に葉で発生し、激発すると葉柄や果柄、へた等にも発生します。
- イ 葉の表面にうどん粉を振りかけたような白いかびが密生します。
- ウ 激発しなければ、実害は低いです。



写真 うどんこ病の被害

### (2) 発生環境（多発の要因）

乾燥条件で発生が多くなります。

### (3) 防除方法

換気に注意し、肥料切れをさせないようにしましょう。